

2026年度 沖縄大学
学校推薦型選抜

「福祉文化学科社会福祉専攻小論文」
問題用紙

2025年11月22日(土)
9:00~10:00

2026 年度 沖縄大学 福祉文化学科社会福祉専攻 学校推薦型 小論文試験

愛知県豊明市が全市民を対象に、スマホの使いすぎに警鐘を鳴らす条例案を議会に提出した。それに対して、個人の生活に踏み込むものであると市民から疑問の声が上がっているという。記事では、この条例案に対して、個人の行動を規制するのではなく、スマホに依存せざるを得ない環境上の要因（子どもが安心して遊べる場所や子育てを支える地域づくり）に目を向けることが重要ではないかと述べている。

スマホ依存を減らすためにはどのような社会の仕組みが必要か、また、個人としてできることは何か、以下の記事の内容をふまえて、あなたの考えを述べなさい。（600 字～800 字以内で書いてください。句読点は文字数に含みます。）

【社説】スマホ規制条例 依存しない街づくりを（朝日新聞 2025 年 9 月 1 日）

1 日の余暇のスマホ利用は 2 時間以内を目安に一。

愛知県豊明市が全市民を対象に、スマホの使いすぎに警鐘を鳴らす条例案を議会に提出した。義務や罰則を科さない理念条例とはいえ、個人の生活に踏み込むもの。納得できる説明が必須だが、これまでの対応は心もとない。

子育て中の市民の相談などがきっかけだったという。でも唐突な提案で、市に電話やメールで 100 件超の意見が寄せられている。「なぜ条例で使用を制限するのか」などと、否定的な意見が 7 割だ。

市は強制はしないし、勉強や仕事の利用は除くし、家庭の話し合いの結果なら 3 時間でも 4 時間でもいい、としている。えらく柔軟な弁明だ。ならば逆に、わざわざ条例を決める意味は何なのか、と思えてくる。

しかも対策は家庭のルールで、という。もともと多くの家庭が悩んでいる。市や学校がどうかかわるのか、具体的な説明が必要だろう。反発を招くだけでは、残念だ。

香川県も 2020 年にネット・ゲーム依存症対策条例を施行した。家庭で話し合い、18 歳未満の利用を 1 時間以内にしようというものだった。だが、昨年の調査で県内の中学生の 65% が 1 時間以上オンラインゲームをしている。

かけ声だけでは現実を変えられない。そもそも長時間の利用が健康にどう影響を及ぼしているのか。データを示さないと、規制も受け入れられない。本来は国が詳細調査して提示するべきだ。

こども家庭庁の調査でも、10～17 歳は平日 5 時間超もネットを利用している。学力との関係、ながらスマホの危険性など、ほかにも多くの懸念がある。海外では、オーストラリアが 12 月に、法律で 16 歳未満の SNS 利用を禁止、違反した事業者に罰金を科す。一律禁止の手法はともかく、国レベルの議論が必要だ。

豊明市の条例の主眼は子どもだ。そのための問題提起、というなら、議会もまず当事者である子どもや保護者に実態を聴くところから、始めてほしい。

親が乳幼児にスマホを見せるのはなぜか。人混みで泣かれて周りに迷惑がられるからか。ひとり育児で、家事から手が離せないからなのか。

スマホを制限したら、子どもはどうするだろう。安全かつ自由に遊べる公園、運動場はあるのか。

結局、子育てを温かく見守る地域社会、環境をつくっているか、ということにかかわっている。スマホに依存しない街づくりへ道筋を整えることこそ、自治体の責務だ。